

会 議 録

1 会議名

第5回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・協議事項（公開）

（1）平成30年度地域活動支援事業（大潟区）【追加募集分】の採択・補助額について

・報告事項（公開）

（1）頸北地区地域協議会委員合同研修について

・その他

3 開催日時

平成30年8月23日（木）午後6時30分から午後7時50分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 2階 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：石田浩二、梅木英亮、君波豊、後藤紀一、小山茂、佐藤忠治、佐藤博之、
内藤恒、中嶋浩、細井義久、山田幸作、山本宏（16名中12名出席）

・事務局：鍵田大潟区総合事務所長、佐々木次長（総務・地域振興グループ長兼務）、
朝日総務・地域振興グループ班長、水澤総務・地域振興グループ主任

8 発言の内容（要旨）

【佐々木次長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【佐藤忠治会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：山本宏委員に依頼

【佐々木次長】

協議事項に入る。これより会長が議長を務める。

【佐藤忠治会長】

では、協議事項「平成30年度地域活動支援事業（大潟区）【追加募集分】の採択・補助額について」に入る。

【水澤主任】

資料について説明。

【佐藤忠治会長】

事務局から説明があったとおり、2件の提案事業について、優先して採択する事業として補助額の検討に入るがよろしいか。

(一同異議無し)

では、補助額の検討に入る。

【水澤主任】

資料について説明。

【佐藤忠治会長】

補助額について、提案団体の希望どおりとする案について意見等はないか。

(一同無し)

2件の提案について採択し、補助額を原案どおりとしてよいか。

(一同異議無し)

以上で、2事業の採択及び補助額が決定した。

次に、事業の特記事項案について事務局から説明する。

【水澤主任】

資料について説明。

【佐藤忠治会長】

意見、質問等はないか。

【後藤紀一委員】

使用する映像・アニメ・楽曲について、著作権等の法令に抵触するかという判断は我々には難しい。相談先については総合事務所で良いか。まちづくり大潟もそういった知識を持っていないと思う。

【佐々木次長】

まちづくり大潟が事業主体となって行っていくが、見積もりを依頼する上で仕様書に注意事項として明記している。業者が作成する映像について、著作権はまちづくり大潟にあるということも明記している。まちづくり大潟が業者と契約を締結する上でも、契約書に明記されることだと考えている。

【後藤紀一委員】

了解した。

【佐藤忠治会長】

ほかにないか。

【佐々木次長】

追加で説明する。著作権について判断がつかない場合においては、まちづくり大潟と総合事務所で協議し、確認して対応する。その確認については報告させていただく。

【佐藤忠治会長】

特記事項について他にないか。

(一同無し)

では、事務局案のとおりとすることでよいか。

(一同了承)

それでは、事務局案のとおり特記事項として採択結果とともに提案者に通知する。

次に、報告事項に移る。頸北地区地域協議会委員合同研修会の開催について、事務局から説明を願う。

【朝日班長】

資料について説明。

【佐藤忠治会長】

分科会のテーマも含め意見等はないか。意見については、後日でも連絡していただきたい。昨年の分科会は、「地域活動支援事業の取組みについて」、「自主的審議事項や地域を元気にする提案事業の取組みについて」、「他団体と地域協議会の関係について」の3つであった。

【君波豊副会長】

講演会の内容について「地域自治について考える～地域自治の充実に向けて～」となっているが、そこから離れて人口減少化に向けての地域自治についても聞きたいと思う。

【佐藤忠治会長】

先日、地域自治の研修で長野県飯田市を訪れた。飯田市は、上越市とおなじ地域自治区制度をとっている。合併前後の自治の変化の検証を3年程前から行っている。21の地域自治区があり、総合事務所のような機能をもつ自治地域振興センターがある。また、各町内会、公民館、PTAがメンバーとなるまちづくり委員会がある。人口割りで市から地域活動交付金が入り、それに基づき事業を行っている。地域課題を解決する実動部隊はまちづくり委員会である。地域協議会は非常に形式的な会であり、諮問がなければ開催しない。

今回、飯田市の中心部から車で1時間の山の中にある上村自治区の元村長、元自治会長、元議員、まちづくり委員会の副会長、地域協議会副会長をされた方、自治地域振興センター長と会った。山間地であり、災害で怖いのはがけ崩れであるということであった。静岡にも近く、南海トラフ地震を警戒している。山を下りる人が増え過疎化が進んでいる。リニア新幹線が通る計画があり、それを活性化につなげていきたいと考えていた。

飯田市で講演会の講師を依頼する宗野先生とお会いした。宗野先生は全国の地域自治の研究をしている。アメリカの地域自治との違いも研究している。

何か質問はないか。また、委員からの連絡はないか。

(一同なし)

では、事務局から連絡である。

【朝日班長】

「浦川原区地域協議会委員研修の開催について」という案内があった。11月28日(水)に浦川原コミュニティプラザで、「ほくほく線の現状と今後の利用促進について」というテーマで講演が開催される。浦川原区と安塚区、頸城区、大湊区の地域協議会委員に案内があった。大湊区は犀潟駅からほくほく線が発着している。この機会を利用し講演を聞いていただきたい。出席される方は事務局まで連絡をいただきたい。

大湊区の敬老会の案内についてだが、地域協議会委員からも出席いただきたいと案内があった。

【佐藤忠治会長】

今後の日程について事務局から説明する。

【佐々木次長】

9月は合同研修会があることから地域協議会は開催しない。第6回大湊区地域協議会は10月25日(木)午後6時30分から開催する。

【内藤恒委員】

合同研修会の分科会のテーマはいつごろ決定するか。分科会は3つに分かれ、取りまとめ役が大湊区になる可能性が大きいのではないか。

【佐藤忠治会長】

去年は司会者と発表者は違う人であった。

【内藤恒委員】

事前にテーマを委員に知らせておいた方がよい。できるだけ早く決めていただきたい。

【佐藤忠治会長】

テーマについて何か案はあるか。

【内藤恒委員】

検討しているが、案としてはまとまっていない。去年は、地域活動支援事業の採点基準などを話した。

【佐藤忠治会長】

基準は各地域協議会に任されている。吉川区では多くの団体から提案があるため予算が足りないということであった。

【内藤恒委員】

吉川区では、町内会など他団体と意見交換会を行っているとのことである。

【佐藤忠治会長】

吉川区は出張地域協議会を行っている。人集めと事前に意見の取りまとめを町内会に依頼して実施している。柿崎区でも出張地域協議会を開催し、その後に意見交換会を行っていた。今年も、地域協議会だけで地域に出向いて、住民の意見を聞く会という形で行ったということである。事前に意見の取りまとめを依頼すると、行政に対する要望ばかりであるため「災害時の対応」、「公共交通について」とテーマを決めて実施したということである。そこでの意見を検討委員会で検討している。

【中嶋浩委員】

テーマは重要であると考え。「地域活動支援事業について」というテーマもそれだけであると弱いのではないかと考える。4区の地形や状況に違いがあり課題も違うが、それを出し合うことは意味がある。

「地域活動支援事業に委員として期待すること」「地域活動支援事業の課題と展望」など具体的なものでないと話が広くなりすぎる。具体的なテーマを早めに各区に通知できればよいと思う。

【佐藤忠治会長】

テーマとして何が適当か、去年のテーマを踏まえて講師にも相談したいと思う。今回

の講師が座長となっている会議において、地域協議会の活性化についての課題として「市議会との連携」を挙げている。住民の意向を反映するためには地域協議会だけでは不十分である。議員と地域協議会委員との連携の在り方等が検証委員会の報告書にもあり、分科会で取り上げてはどうかと事務局との打合せの中ででた。ただ、テーマが大きすぎる。

【君波豊副会長】

テーマが大きすぎるため、やめたほうがよい。

【内藤恒委員】

過去の分科会のテーマを参考にして考えたほうがよいのではないかと。

【佐藤忠治会長】

佐々木次長から聞いたが、柿崎区では振興会、地域協議会、柿崎区選出の議員で意見交換会と懇親会を行っているそうである。大潟区でも地域協議会の発足当時、地域協議会の意見を市議会に反映させてもらうために大潟区選出議員との懇談会を行った。

【中嶋浩委員】

今の話は地域協議会の在り方につながるのではないかと。

【後藤紀一委員】

地域協議会がなぜ作られたのかを再確認する必要があるのではないかと。合併当時は関心があったが、今は薄らいでいる。市議会においては定数問題等が議論されているが、地域協議会から意見を聞くということではなく、あくまで議会内部での論議である。地域協議会に意見を求められればよいと思う。地域協議会がなぜ作られたかということ振り返ってみる必要があるのではないかと。上越市の地域自治制度はそこが特徴であったはずだが、地域活動支援事業の配分額を決定することが地域協議会の仕事になっている。

【君波豊副会長】

公共交通の問題を取り上げてよいのではないかと。大潟区においても便利がよいわけではない。「地域協議会をより活性化するために」というレポートが出ているが、市議会での発言等についても、市長の諮問機関であるとのことで拒否されている。宗野先生は

合併当初の上越市の地域自治区の在り方等の研究会のメンバーであったのではないかと。そういう意味で、当時の研究内容と現状とではどうかということを質問して比較してもらってもよいのではないかと。

【後藤紀一委員】

講師に対する質問と分科会のテーマは別ではないかと。

【君波豊副会長】

分科会で大きすぎるテーマは意見が活発化しないのではないかと。昨年の分科会において「自主的審議事項」は活発で発言が途切れることがなかった。

【佐藤忠治会長】

地域の課題と展望もよいのではないかと。

【後藤紀一委員】

公共交通についても身近な問題ではあるが、そこで議論し何ができるか。デマンドバス等の発想が出てくると考えるが、4つの自治区の共通課題となると難しい。

【佐藤忠治会長】

公民館で頸北探訪という講座を行っている。

【小山茂委員】

地域の祭りのときに住民から「町内会長も地域協議会委員もやっているが、何をどうやって変えたいと考えているか。」と聞かれた。「自分たちの地域をどう良くしていくか。他人任せではなく、自分たちで考えていく舞台として地域協議会を使ってもらえれば良いのではないかと。」と答えたが、抽象的でよくわからないと言われた。内雁子の集落内でも「子どもはここへ帰ってきて暮らしたいと考えている。」という人が何人もいる。働く場所、交通機関が便利でないということになる。防雪柵の設置によって、夜勤等の人が安心、楽になったという意見があった。

地域協議会として、このような具体的に生活に密着したものを吸い上げて、どうしたらよいか考えていくことが必要である。ある人からは「地域協議会がいくら言っても予算は下りてこない。」という意見もあった。地域住民と話をするなかで、「これまでの活

動は何であったのか。」と考え、「地域活動支援事業が仕事だ」と自分でも感じた。地域で出た声を活かしていきたい。意見交換をする場所をどこかで作っていかないといけないのではないか。

【中嶋浩委員】

そういう問題はそれぞれある。テーマを決め、4つの地域からそれぞれの問題や課題、解決策を出し合うということで良いのではないか。

【佐藤忠治会長】

皆さんの意見を基に検討していきたい。

【君波豊副会長】

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL : 025-534-2111 (内線 201、216)

E-mail : ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。